

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スペースあい（多機能型 放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日	～	令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日	～	令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育プログラム 河添理論とSST	・登所したら、必ず「雑巾がけ」と「体ほぐし」をしています。リラックスした状態でいき、心と体をほぐします。 ・遊んでいるうちに自然と体幹が鍛えられちゃった遊びの中に、スタッフ手作りの竹渡りも仲間入り！みるみる体が整います。 ・子ども達の「やってみたい」をできる限り実現できる支援をしています。 ・経験を積んだ作業療法士、保育士による専門的支援からのアプローチにも力を入れています。	・より良い療育の為どのようなアプローチが必要か、様々な外部研修に参加し、研鑽に努めていきたいです。研修内容を所内でも展開しスタッフみんなで共有する事で、チームで力をつけていきたいです。 ・体幹強化プログラムや成長記録について、今までの取り組みをデータでわかりやすくまとめ、継続して取り組めるようにしていきたいです。
2	スペースあいだからこそ オープンハート♡&チャレンジ	・「暑暑がなんだ！雪が少ないからどうした！社会情勢が大変だから！」といって、子ども達の遊びたい遊びを諦めません。経験させたい気持ちを諦めません。工夫すればできる！対策すればできるを常に考えています。昨年の反省点をいかし、所内活動スペース（裏グラウンド）を有効活用しています。ボール遊びのバリエーションが増えたり、四季の自然を肌で感じる活動が増えました。又、地域交流の幅も広がっています。	・より良い療育を安定して続けていく為、株式会社ゆうの中での人事異動があります。各事業所間での情報やスキル・お互いの強みを共有していくことで、さらに磨きをかけていきたいです。事業所同士の交流の機会や地域の方々を巻き込んだイベント、親子参加イベントなども計画し増やしていきたいです。 ・裏グラウンドや園庭のさらなる開拓を考えていきたいです。
3	関係する人すべてに 寄り添えるスタッフ	・子ども達の嬉しい悲しい気持ちや親御さんの悩み事にはもちろん、スタッフ自身の困った出来事にも、自分の事のように寄り添って考えてくれるスタッフばかりです。スタッフが元気いっぱい活動していて、笑顔のシャワーを降り注いでいます。日々、子ども達について話し合いをしていて、スタッフそれぞれの思いや考えを共有し、より良い療育を考えています。	・スタッフ間で、話しやすい雰囲気作りや環境作りを意識して、風通しの良い職場を目指していきたいです。 ・まずは、自分自身が相手に心と手を開くこと。自分に余裕がない時は、周りのスタッフを頼りにして、みんなで支え合い、高めあえる職場作りをしていきたいです。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境・体制整備	・日々活動している中で、不便に感じたり、改善・修理が必要な部分があります。利用児童の年齢の幅が広い為、子どものサイズにあった物か？検討していく必要がある物があります。（机・椅子・箸・遊具、等） ・建物の構造上、玄関・女子トイレ・廊下に暗い印象があります。	・修理や、療育に必要な物に優先順位をつけて、一つ一つの改善に努めていきたいです。 ・子ども達の様子をよく観察し、どんな場面でどんな工夫ができるのか検討していきたいです。 ・LEDライトの見直しや、行き届いていない場所の掃除を取り入れていきたいです。
2	相談支援力	・家族の中で、家族皆さんの笑顔をとくさん引き出す為に、もっとより良い支援ができるのでは。 ・スタッフ一人で考えすぎず、背負い込みすぎず、その場面の対応をどうしていくか考えていきたいが、瞬時の判断が必要な場合もあるので、悩む事もあります。	・日頃から、スタッフ間の話し合いの時間を大切にしていきたいです。支援の方向性を統一して考えていく事で、悩みを減らしていきたいです。 ・専門的な研修や勉強会にも積極的に参加し、自己研鑽すると共に、スタッフ間で共有していきたいです。
3	支援の提供力	・子ども達が心から満足して遊べる遊びについては、常に考えていきたいです。 ・十分なスペースはあるものの、異年齢の子ども達が思い思いの遊びを楽しむ為には、空間の使い方にも工夫が必要な場面があります。	・遊びが子ども達のどんな成長に繋がっていくかを知る事でスタッフ自身も楽しみながら提供力を身に付けていきたいです。あい式、遊び一覧を作る事も面白いなど考えています。 ・活動中に、スタッフ同士で意図している思いを汲み取りあい、考えて行動に移せるよう、日頃からの連携を大切にしていきたいです。